

平成27年度 政策づくり塾 第6回活動報告

第6回政策づくり塾は「市長との懇談」を行いました。これまでの塾活動の報告と意見交換を行いました。

市長のあいさつ

みなさんの活動報告や意見が聞けるのを楽しみにしていました。

「市長は雲の上のような存在」と若い職員から言われたことがあります。私にはたくさんの役割があるので、皆さんに助けてもらわなければなりません。だから若い人の話を良く聞こうと思っています。役職は仕事の役割を決めるものであり、決して偉いものでもなく、威張るものではないと思っています。

まちは自分で変えられるという思いを持って、若い皆さんには「周りが何をしてくれるのか」という気持ちではなく「自分が何をすればよいのか」を考えていただきたいと思います。

参考) これまでの塾活動

日にち	内容
第1回 5月8日(金)	開塾式・講義「政策づくり入門」
第2回 6月3日(水)	講義「舞鶴市の現状と課題」 講義「地方創生に向けた市の取組」 講義「舞鶴市の予算」 グループワーク「身近に感じるまちの課題」
第3回 7月3日(金)	講義「ワークショップの進め方や注意点」 グループワーク「まちの課題とその解決策」
第4回 8月9日(日)	「市民による政策評価会」を傍聴
第5回 9月4日(金)	グループワークのまとめ

活動報告 グループで議論してきた「まちの課題とその解決策」について発表、市長に講評をいただきました。

グループ1 今月もおつかれさまでした券

●提案趣旨

進学を機に舞鶴を出てそのまま就職する若者が多い。若者は高い給料や生活費が少なく済む地域を望む。⇒若者が働きたくなる街にするにはどうすればよいのか。

★「今月もおつかれさまでした券」の発行

- ①市内企業で働く若者にクーポン券
- ②市内の飲食店で利用可能
- ③舞鶴産の特産品を使用した料理が対象

●市長のコメント

・漠然とした目標で都会に出て行っても現実には厳しい生活だと思う。明確な目標をもって都会に行くのなら良いが、なんとなく都会へ行くのは問題。都会に出たら全員幸せではないと思う。親は、子どもに将来の目標を持たせることが必要だと思う。

・若者にだけクーポン券を渡すということは行政が実施するには課題があるのでは？

・最近の若者は飲み会に行かない。ノミニケーションをもつ場をつくるアイデアは面白い。

《自由な意見交換》

～市政に対する思いや市長に聞きたいこと等、意見交換を行いました～

市民塾生から、市の情報を広く伝える方法はないか、国際社会で働ける人材育成が必要ではないか、市役所職員は異動が多いがスペシャリストを育ててもらいたいなどの意見が出されました。また、子どもをもつ市民塾生からは、舞鶴は子育てのしやすいまちになってきているとの嬉しい意見も出されました。

グループ2

一貫性と連携システムを備えた職場体験学習

●提案趣旨

将来の夢や目標をもっている子どもが少ない(舞鶴は全国平均以下)。夢を描くためには将来を具体的にイメージできることが必要。

⇒子どもが夢や目標をイメージできるためにはどうすればよいのか。

★一貫性と連携システムを備えた職場体験学習の実施

- ①幼稚園から大学まで発達別にあった職業見学・体験などの社会体験を積ませる
- ②行政・教育・民間・市民による、まちぐるみで社会体験のできる環境づくりを行う

●市長のコメント

・教育振興大綱にも「ふるさと舞鶴を愛し夢に向かって将来を切り拓く子ども」を掲げている。

・北部5市2町での教育・働く場の連携や0～15歳までの切り目のない質の高い教育の充実(小中一貫教育)を考えている。

・夢を持たせるにはどうしたら良いかをずっと考えている。

・そういう面で、この提案は私の思いと同じであり良い提案だと思っている。今後の進め方に期待をしている。



第7回活動

10月2日(金) 18:30～19:30

西駅交流センター

今後取り組みたいテーマのプレゼンなど